

小学校検定教科書における児童文学

—— 教員養成への示唆 ——

高橋和子

Abstract

This paper aims to identify the characteristics of children's literature in elementary school teacher courses. A new curriculum for elementary schools was enforced in 2020. "Foreign Languages" in grades 5 and 6 started to use authorized English textbooks to foster pupils' basic communication abilities. Moreover, the National Core Curriculum for Elementary School Teacher Courses began in 2019. In these courses, university students are required to learn the skills necessary for elementary school English teaching: basic knowledge of English pronunciation, vocabulary, and grammar; the process of language learning in children; and the fundamentals of intercultural communication and children's literature. In this paper, we would like to focus on knowledge of children's literature, which we define broadly to encompass materials such as picture books, stories for children, simple songs, and poems. We analyze material in authorized English textbooks and thus give suggestions for possible approaches to children's literature in elementary school teacher courses.

キーワード

小学校英語教育 児童文学 教員養成 コア・カリキュラム

1. はじめに

2019年度から開始した小学校「外国語(英語)コア・カリキュラム」は、¹「小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける」ことの必要性を示し、「背景的な知識」の1つに「児童文学(絵本, 子ども向けの歌や詩等)」を含めている(東京学芸大学, 2017)。次節2. 先行研究で説明するように、児童文学を英語教育で用いる利点は多い。一方、児童文学を教職課程で教える際、何をどこまで扱えば、小学校英語授業に必要な知識を身に付けることができるのか、その判断は授業担当者に委ねられている。各担当者が、小学校英語教育に資することを願って児童文学を扱っても、

将来、大学での学びが活用できるかは未知数である。そこで本稿は、教員養成課程において<児童文学の何を・どこまで教えたらよいか>を明らかにする観点から、検定教科書に掲載されている児童文学の特色を明らかにすることを研究目的とする。

小学校英語教育における児童文学を論じるにあたって、あらかじめ児童文学と児童文学教材の定義を確認したい。東京学芸大学(2017)は「児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)」と示しているが、現行の『小学校学習指導要領』は「教材選定の観点」に「物語」を含めていることから、本稿では「児童文学(絵本・子ども向けの物語、歌や詩等)」と定めたい(文部科学省, 2017a)。また、児童文学教材には、英語教育用に児童文学を教材化したテキスト本体だけでなく、テキストに付された説明や問い、言語活動・学習活動等も含むこととしたい。

2. 先行研究—児童文学を英語教育で用いる意義—

これまでに様々な研究者が、子どもが言語を習得する上で児童文学が果たす役割に注目してきた。Cameron (2001) は、物語は言語教育及び言語学習において「全体論的・全人的なアプローチ(“holistic approaches”)」を可能にするとした上で(p. 159), “Stories offer a whole imaginary world, created by language, that children can enter and enjoy, learning language as they go.”と説明し、Ellis & Brewster (2014) は “storybooks can provide an ideal introduction to the foreign language as they present language in a repetitive and memorable context.”と述べて、物語の文脈全体を介して楽しみながら言語学習が可能だと指摘する(同様の指摘はGhosn, 2013; Pinter, 2017; Trelease, 2013; Vale & Feunteun, 1995; Wright, 2008も参照)。さらにAhlquist & Lugossy (2019) は “Stories create a familiar atmosphere in which learners can relate to each other and therefore feel at ease speaking English and expressing their ideas” (p. 187)とし、物語が活発なやり取りを促す可能性を示す。歌や詩についてPinter (2017) は, “Traditional nursery rhymes are full of … rhyming pairs, so children find it quite easy to get a feel for rhymes” (p. 78), “Poems are always unique and personal, and there is no right way of writing them, and this may liberate children from the need to always write to meet set criteria” (p. 92)と言い、音韻認識を高める上での効果や子どもたちの自由な発想を生かせる可能性について説明する。

日本の小学校英語教育に関して論じた研究においても、児童文学の効果を指摘する研究者は多い。たとえばアレン(2010)は『『意味のある文脈』の中で言語を教えるという観点からすると物語は非常に優れた教材』だと主張する(p. 49)。そして「意味は部分に存在せず、テキスト全体から作り上げられる」(p. 49)と述べ、「学習者が理解しやすいようにと言語を簡単にし、1文や1回のやり取りの会話な[ど]で教えようとする、言葉を成り立たせている文脈がなくなり、本当の言語習得は起こらない」と危惧する(アレン, 2010, p. 160)。また、外山(2010)は絵本を活用すると「トップダウンで、全体から部分へ進む学習」が可能になり、子どもは「文脈の中で英語を固まりで習得する」としている(p. 21)。歌やチャンツ(chants), ナーサリーライム(nursery rhyme)について泉(2017)は、「英語の音声を丸ごと覚える」こと・「まとまった英語」を聞く可能性を示し(p. 76)、田中

(2017) は「歌は語彙や発音だけでなく、読み書きの習得にも大きな役割を果たし」、「快く楽しい気分になる歌なら、子どもたちは楽しみながら自然と読みの勉強ができる」と主張している (p. 40)。

本節では、児童文学を英語教材として用いる際のおもな意義を挙げた。児童文学を用いることに対して研究者が特に注目する点は、豊かな文脈の中で楽しみながら英語を学習することが可能になり、活発なやり取りが期待できる点だろう。細切れのやり取りが伴いがちな会話教材と比較すると、児童文学教材はまとまった状況を自然に設定することを可能にする。「言語活動」を積極的に行うことを推奨する現在の小学校英語教育において、² 児童文学は大きな役割を果たすことが期待できる。

3. 目的と方法

現在、小学校5・6年生「外国語」授業では、検定教科書中心に授業が行われている。この点を踏まえると、小学校教員になる上で教科書を十分に活用できる資質・能力は不可欠である。そこで本稿は、検定教科書で用いられている児童文学教材を調査し、特色を洗い出し、教員養成課程の授業で〈児童文学の何を・どこまで教えたならよいか〉を考察していく。調査対象とする検定教科書を教科書の記号番号順に掲載する。併せて本稿で用いる教科書名の略称も示す。

表 1 小学校「外国語」検定教科書

発行者名・教科書名 (本稿で用いる略称)・著作者		
東京書籍	・ <i>New Horizon Elementary English Course 5, 6</i> (NH5, NH6)	・ アレン玉井光江他
開隆堂	・ <i>Junior Sunshine 5, 6</i> (JS5, JS6)	・ 萬谷隆一他
学校図書	・ <i>Junior Total English 1, 2</i> (JT1, JT2)	・ 吉田研作他
三省堂	・ <i>Crown Jr. 5, 6</i> (CJ5, CJ6)	・ 酒井英樹他
教育出版	・ <i>One World Smiles 5, 6</i> (OW5, OW6)	・ 金森強・本田敏幸他
光村図書	・ <i>Here We Go! 5, 6</i> (HW5, HW6)	・ 小泉仁他
啓林館	・ <i>Blue Sky Elementary 5, 6</i> (BS5, BS6)	・ 景浦攻他

注 文部科学省 (2020) をもとに筆者作成。東京書籍の *Picture Dictionary* は調査対象から外す

研究は、以下の手順で行う。(1) 各教科書の全体的な構成や内容、単元 (Unit や Lesson) の標準的な構成や内容等を調査、(2) 児童文学教材に該当する教材を抽出、(3) (2) の頁数や掲載箇所、教材内容 (説明や問い、学習活動・言語活動等含む) を分析、(4) 各教科書のデータ比較、(5) 小学校英語教育で求められる児童文学に関する知識を整理。調査の際、児童用教科書に加え、教員が参照する機会が多い指導書 (朱書教科書) も参照する。

4. 結果と考察

本節では、まず各教科書に掲載されている児童文学教材の概要を示す。その後、児童文学教材を、3つ（絵本・子ども向けの物語／歌・詩／その他児童文学教材）に大別して、調査結果を呈示する。各教科書掲載の児童文学教材の詳細は、本稿・資料を参照されたい。

4.1 各教科書の児童文学教材（概要）

各教科書から抽出した児童文学教材を、表2・表3で学年別に示す。教科書の総頁数と単元数、児童文学教材（絵本、物語、歌、詩、その他）に与えられた頁数と各単元での扱いは以下の通りである。表中の〈単元内〉〈単元外〉は、Unit や Lesson の中で扱われているか否かを示す。〈配当無〉は、年間指導計画の中で配当時間が与えられていないことを指す。〈発展〉は、学習指導要領外の内容を扱っているため、発展教材扱いにされていることを示している。

表2 第5学年「外国語」児童文学教材（概要）

書名	★総頁数, 単元数	※児童文学教材の件数 (頁数・各単元での扱い)
NH5	★106 頁, 8 Unit	※物語 1 (1 頁・単元外/配当無)
SS5	★142 頁, 9 Lesson	※物語 1 (1 頁・単元内)
JT1	★162 頁, 10 Lesson	※物語 10 (10 頁・単元内), 歌 10 (5 頁・単元内・発展)
CJ5	★142 頁, 3 Unit	※物語 4 (3.5 頁・単元内)
OW5	★146 頁, 9 Lesson	※物語 1 (1 頁・単元外), 歌 1 (1 頁・単元外/配当無・発展)
HW5	★160 頁, 9 Unit	※物語 1 (1 頁・単元内・発展部分含む), 歌 6 (3.5 頁・単元内・発展)
BS5	★138 頁, 8 Unit	※物語 1 (4 頁・単元外)

表3 第6学年「外国語」児童文学教材（概要）

書名	★総頁数, 単元数	※児童文学教材の件数 (頁数・各単元での扱い)
NH6	★106 頁, 8 Unit	※物語 1 (2 頁・単元外/配当無), 歌 2 (0.5 頁・単元外/配当無・発展), 絵本 8 (1 頁・単元外/配当無)
SS6	★150 頁, 11 Lesson	※物語 2 (4 頁・単元内), 歌 1 (1 行・単元内)
JT2	★158 頁, 10 Lesson	※物語 10 (10 頁・単元内), 歌 10 (5 頁・単元内・発展), その他 (0.5 頁・単元内)
CJ6	★138 頁, 3 Unit	※物語 3 (4 頁・単元内), 詩 1 (1 頁・単元内・発展), その他 (0.5 頁・単元内)
OW6	★146 頁, 9 Lesson	※物語 2 (5 頁・単元外), 歌 1 (1 頁・単元外/配当無・発展)
HW6	★164 頁, 9 Unit	※物語 2 (2 頁・単元内), 詩 1 (1 頁・単元内・発展部分含む), 歌 9 (6 頁・単元内・うち発展 8)
BS6	★138 頁, 8 Unit	※物語 1 (4 頁・単元外)

4.2 絵本・子ども向けの物語

4.2.1 教科書と絵本・子ども向けの物語

〈絵本〉と称する教材は「おすすめの英語絵本」(NH6: 絵本 8 冊の表紙と日本語であらすじ掲載)にある。一方、〈絵本〉という言葉掲げてはいないが、挿絵つきの物語は全教科書に掲載されている。小学校英語教育では、絵本と子ども向けの物語は一体化しており、絵本は〈挿絵がふんだんに用いられた物語〉と言えるだろう。

〈物語〉と題された教材は、“Story” (CJ5, CJ6; BS5, BS6), “Story Time” (NH5, NH6), “Shaggy’s Story” (JT1, JT2), “Let’s Read and ACT” (OW5, OW6), 「物語」(SS5, SS6), 「英語の物語」(HW5, HW6) の見出しで掲載されている。全教科書が物語を採用しており、5年生 19 件、6年生 21 件の掲載がある。教材 1 件につき与えられた頁数は 1-4 頁と幅がある。2 頁以上で物語教材を掲載している場合 (BS5, BS6; NH6; SS6), 1 頁の教材のみの場合 (NH5; SS5; OW5; HW5), 1 頁の教材を複数種類掲載している場合 (JT1, JT2; CJ6; HW6), 2 頁以上・1 頁両方の教材を掲載している場合 (CJ5; OW6) がある。単元内で扱うか否か、発展的な内容と見なすか否かは、各教科書で判断が割れている。単元外で物語を扱う際、あらかじめ配当時間が無く、しかも教科書巻末に掲載されている場合があり (NH5, NH6), 実際にこれらを教員が用いるか否かは不透明だと言えるだろう。

物語の出典は多岐にわたり、日本昔話や日本文化に根ざした物語 (『おむすびころりん』、十二支や七夕の物語等)、日本語で書かれた絵本の英訳版 (“Who’s Behind Me?” 等)、世界の童話・物語 (“A Bundle of Sticks”, “The North Wind and the Sun”, “The Happy Prince”, “The Gingerbread Man”, “The Very Big Turnip”, “Gulliver’s Travels”, “The Blue Bird” 等)、他教科教材として子どもになじみ深い物語 (“The Letter” 等)、新たに創作された物語 (“Shaggy’s Story”) がある。どの教材にも共通する特色は、挿絵が多い点であり、中には 4-8 コマを用いて漫画仕立てにしている教材もある。

物語を教材化した場合、豊かな文脈の中で英語を教えることが期待できるが、話が十分に発展しない教材もある。このような教材は〈単元内・発展扱いなし〉で扱われる物語に目立ち、学習目標とする基本文・語彙の制約を受けて、限られた内容を示すに留まっている。例えば (JT1, JT2) は、各単元末に Shaggy の物語を掲載するが、これらは当該単元の基本文 (“How much ~?”, “Where is ~?”, “I went to ~”, “Who is ~?” 等) を含み、全体として豊かな文脈を築くことが難しくなっている。一方、〈単元外・発展扱い〉の物語教材では、話全体の理解を優先して、細かな部分 (1 文ごとの内容や、語彙の意味) にこだわらないように方向づける傾向がある。例えば “The Letter” (OW6) は、指導書で「初出の語も出てくるが、物語の流れがわかればよく、とくに取り上げて指導はしない」と説明を加えている。

物語教材と共に掲載されている問いや活動に関しては、教材ごとに細やかな問い・活動を用意している例 (HW5, HW6) がある一方、全物語に同じ問い・活動が付された例 (CJ5, CJ6: 「①どんなお話でしたか。どんなことばが聞こえましたか。②もう一度聞こう」; BS5, BS6: 「絵を見ながら物語を聞いて、内容を考えましょう」; OW5, OW6: 「絵を見ながら英語を聞いて、物語の流れを追ってみよう」) もある。同様の傾向は指導書にも見られ、異なる教材に対して同じ指導ポイントを挙げている例 (CJ5, CJ6: 「イラストに描かれているものやストーリー展開に沿った問いかけをし、概要をとらえさせる」, 「児童の聞

き取れた語句をストーリーベースで引き出す」等)がある。

4.2.2 教員養成課程と絵本・子ども向けの物語

上で見たように、小学校で用いる物語は、英語圏由来のものに留まらない。日本昔話や日本文化に関する物語、英語圏以外の物語も多く含まれる。教員養成課程では、幅広い地域で語り継がれてきた子ども向けの物語への興味関心を高め、異文化理解に努めておきたい。また、今回の調査を踏まえると、教科書全体に占める児童文学教材の割合はわずかである。会話を扱った教材がその大半で、自己紹介・道案内・飲食店での注文等の場面設定をした上で、基本文や語彙の導入・定着を図っている。一方、物語を用いれば、教室という限られた空間の中で、敢えて不自然な場面設定をする必要がない。物語教材を用いると、豊かな文脈の中で英語を教えることが可能になることを学習内容に含めたい。

このような豊かな文脈を生かすための指導力育成も欠かせない。文脈が希薄な物語を用いる際は、何らかの形で文脈を補うことができると安心である。例えば、教材の挿絵を用いてオリジナルの物語を作ったり、他の物語と結び付けたりして、文脈を豊かにする工夫が考えられる。文脈が十分に備わった物語を扱う際は、全体の流れを優先し、必要に応じて細かな理解へと進むプロセスも理解させたい。さらに、どのような物語教材を扱う際も、教科書掲載の問いや活動をそのまま使用することなく、時にはこれらを選別したり、新たな問い・活動を設定したりする能力も求められるだろう。先述した通り、小学校英語教育の物語教材は挿絵が豊富に用いられている。この現状を踏まえ、物語教材の中の文字情報だけではなく、挿絵をはじめとする様々な媒体を組み合わせる能力育成が望まれる。物語教材の英語が難しい場合は、挿絵やデジタル教材を使って大まかな内容を理解させたり、子どもたちが既に知っている童話や昔話の場合は既知情報を用いて内容理解を補ったりする力も養いたい。

4.3 歌・詩

4.3.1 教科書と歌・詩

<歌>と銘打った教材は、“Let’s Sing” (NH5, NH6; SS5, SS6), “Songs for Lesson” (JT1, JT2), “Let’s Enjoy the Music” (OW5, OW6), 「英語の歌」(HW5, HW6) の見出しで掲載されている。小学校英語教育における歌を分類した衣笠(2017)は「①授業の始まりや終わり、活動の切れ目、終わりのうた」「②基本的な単語・表現の定着を促す歌」「③異文化のうた遊びを体験するうた」「④異文化理解に向かうた」「⑤国際交流会(歓迎のうた)、行事に向く歌」「⑥その他—テレビ・映画・音楽の授業などで馴染みのあるうた」の6種を示している(衣笠, 2017, p. 118)。本稿は、児童文学教材としての歌を研究対象にするため、①・②に分類される歌は調査結果から外した。確かに①・②は授業運営を円滑にし、英語の音声や基本的な語彙・基本文の導入や定着のために非常に有益である。一方、児童文学を英語教育で用いる大きな利点の1つは文脈の中で英語を教え得る点である。その結果、意味の積み重ねを得ることが難しい歌は例え<歌>と銘打たれていても調査結果から外した。実際、アルファベットや数・曜日・月に関する歌をチャンツやジングル(jingle)と称している教科書もあり(CJ5, CJ6; BS5, BS6)、小学校英語教育では、歌・チャンツ・ジングルの境界が、中学校以降の英語教育よりも曖昧だと言えるだろう。

歌の掲載は、5年生では17件、6年生では23件ある。全単元に歌を掲載する教科書(JT1, JT2)がある一方、少数の歌を扱う教科書もある。大多数は歌詞を教科書に掲載しているが、歌のタイトルのみ記載する例(SS6)もある。選ばれている歌は、マザーグース(Mother Goose)のように英語圏で昔から親しまれてきた童謡が多いが、“We Are the World”のように比較的新しい歌を取り入れる例(NH6)もある。また、歌は英語を楽しんで学ぶ教材と捉え、物語や詩と共に発展扱いで掲載する教科書(HW5, HW6)もある。同書では、歌や詩、物語を“Fun Time”と名付けた箇所にまとめ、指導書で「Fun Timeは、単元の中で内容に関連させながら適宜使用する」と説明している。さらに、歌の掲載量が多いほど、指導書の説明が詳しい傾向が見られる。例えば、(JT1, JT2)は訳ばかりではなく、段階別に分けた指導ポイント、豊富な活動例を紹介しており、歌を積極的に取り入れてほしいと願う出版側の意図を感じる。一方、少数の歌を巻末に掲載する例(NH6; OW5, OW6)もあり、このような場合は余裕があれば扱ったらどうかという提案が透けて見える。

詩は、歌詞と朗読音声を教材化した例(CJ6)と、日本語で書かれた詩の英訳を用いた教材(HW6)、計2件である。これらの詩は、メロディーなしの歌として捉えることも可能であろう。

4.3.2 教員養成課程と歌・詩

調査の結果、マザーグースやナーサリーライムの範疇に入る歌が多くあった。“Pat-A-Cake”(JT1)や“London Bridge”(JT2)、“Pease Porridge Hot”(HW5)、“Humpty Dumpty”(HW6)等が含まれる。マザーグースに関しては、コア・カリキュラム策定時に、これを特に取り上げて扱うことに対して賛否両論があった。コア・カリキュラム試案の段階では、「マザーグースは音韻認識やプロソディーの獲得に有効」と見なされ、「教科に関する科目」・「英語運用に必要な基本的な知識等」の項で、「マザーグース等・絵本・児童文学」と記された(東京学芸大学, 2016)。一方、コア・カリキュラム最終案では「詩歌の代表としてマザーグースのみを挙げていることや絵本、児童文学と並列で示していることに違和感があるという意見が複数」寄せられ、結果的には「児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)」という表現に落ち着いた(東京学芸大学, 2017)。このような経緯はあるが、複数の教科書で活用されている実態を踏まえると、マザーグースやナーサリーライムが英語圏で果たしてきた役割を学習内容に取り入れることが望ましいだろう。その際、伝え継がれてきた手遊び等の動作も共に学習することを通して、異文化理解を図ったかどうか。

もとより、歌や詩を活用する際は、音声の特色を理解することが欠かせない。歌や詩の詳しい意味理解にとらわれる過ぎることなく、英語特有の音声やプロソディーを自然に身に付けさせるための知識・技能を、体験しながら学習することも大切であろう。

4.4 その他児童文学教材

4.4.1 教科書とその他児童文学教材

その他教材として、児童文学を部分的に活用している事例2件をあげる。*Cinderella*と『モチモチの木』の一場面を掲載して、登場人物の行動・心情を問う教材(JT2)、*Alice's*

Adventures in Wonderland や『桃太郎』をもとにした挿絵各3枚を載せて、話の展開順に絵を並べ替えさせる教材(CJ6)がある。これらは、一見、児童文学教材には見えないが、物語を踏まえた教材だと言えるだろう。子どもたちにとってなじみ深い話であり、しかも物語には豊かな文脈が備わっている為、物語の一部分だけを取り出しても教材化が可能になっている。

最後に劇について言及する。直接劇を教材として扱っている例はなかったが、物語を扱う際に簡単な劇を行う提案をしている例(OW5, OW6; BS6)がある。小学校英語教育における劇は、台本を教材化するというよりも、言語活動の一形態として劇を取り入れる可能性が高い。低学年の子どものために物語を台本化して演じることを提案している例(BS6:「劇などの活動に発展させて、1年生の児童にもわかるような演出を考えて発表させる」)もあり、演じることを通して英語を学ぶ動機を与えている。

4.4.2 小学校教員養成課程とその他児童文学教材

その他教材に対応する上で、児童文学教材には見えない教材から児童文学教材を見出し、これを活用できる力が必要だろう。今回、調査結果には含めなかったが、物語の主人公が見え隠れする例もある(CJ5: Peter Pan, Pinocchio, 浦島太郎, かぐや姫等のイラスト掲載, リスニング教材化)。語り継がれてきた世界の童話や物語, 日本昔話を取り上げて, あらすじや主人公に関する最低限の知識を, 授業で少しずつ扱うことも一案だろう。また, 多彩な話題を物語形式で扱う教材(NH6: 共生のテーマを「ウミガメの話」として教材化)もあった。このような物語形式の教材に対応するためには, 会話教材と物語教材の違いを理解し, 物語の特性を生かした指導方法を学ぶことが大切だと考えられる。活動形態として劇が用いられている点を踏まえ, 物語を扱う際に, 物語と劇の違いを考えたり, 登場人物の行動やせりふを平易な英語で書き換えたり, 学生自ら演じたりする学習内容も考えられるだろう。

5. まとめと本研究の課題

本研究は、検定教科書における児童文学教材の特色を示すことを通して、小学校教員養成課程において＜児童文学の何を・どこまで教えたらよいか＞を明らかにすることを目標にした。残された課題としてあげられることは、＜検定教科書の児童文学教材を教えるために必要な資質・能力＞と、＜教員養成課程で児童文学を扱う際に、育成することが望ましい資質・能力＞が、必ずしも一致しないという点である。児童文学には、各作品の歴史的背景や、長い時間をかけて育まれてきた文化が込められている。これらの背景・文化の存在を知り、価値を認めることが出来た時、はじめて児童文学を用いて英語教育を行えるのではないか。今後は、検定教科書における児童文学を核としながらも、この外に広がる豊かな歴史・文化について、教員養成課程では＜何を・どこまで扱ったらよいか＞に関して、研究を進める必要がある。

謝辞

本稿は、科学研究費（課題番号20K00846・基盤研究（C）・研究課題名「小・中・高の英語教育に生かすための教職課程における英語文学カリキュラム開発」、研究代表者・高橋和子、研究分担者・伊藤摂子）による研究の一部である。また、以下の研究発表を大幅に加筆修正している：高橋和子「小学校検定教科書における児童文学—バックワード・デザインで教員養成のあり方を考える—」関東甲信越英語教育学会第44回オンライン研究会（2020年12月12-13日）。本稿執筆にあたり、査読委員の先生方から貴重なご助言をいただきました。心より御礼申し上げます。

注

- 1 東京学芸大学（2016, 2017）に基づいて、コア・カリキュラムと表記する。引用文献がコアカリキュラムと記載している場合は引用文献の表記に従う。
- 2 『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語科編』では「学習活動」は15回、「言語活動」は68回言及されている。同解説は「各単元や各時間の学習活動を行う際に、単に繰り返し活動を行うのではなく、各学校で設定した学習到達目標を踏まえ、児童がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して学習に臨むことができるよう、どのような言語活動を行うのかを明確に示す必要がある」と記述する（文部科学省, 2017b参照）。小学校英語教育では、「言語活動」を積極的に取り入れることが求められている。

引用文献

- Ahlquist, S., & Lugossy, R. (2019). *Stories and storyline*. Hongkong: Candlin & Mynard.
- Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge University Press.
- Ellis, G., & Brewster, J. (2014). *Tell it again!: The storytelling handbook for primary English language teachers* (second ed.). British Council. Retrieved October 7, 2021, from https://www.teachingenglish.org.uk/sites/teacheng/files/pub_D467_Storytelling_handbook_FINAL_web.pdf
- Ghosn, I. (2013). *Storybridge to second language literacy: The theory, research, and practice of teaching English with children's literature*. Charlotte, NC: Information Age Publishing.
- Pinter, A. (2017). *Teaching young language learners* (second ed.). Oxford University Press.
- Trelease, J. (2013). *The read-aloud handbook* (seventh ed.). New York: Penguin Books.
- Vale, D., & Feunteun, A. (1995). *Teaching children English: A training course for teachers of English to children*. Cambridge University Press.
- Wright, A. (2008). *Storytelling with children* (second ed.). Oxford University Press.
- アレン玉井光江. (2010). 『小学校英語の教育法—理論と実践』東京：大修館書店。
- 泉恵美子. (2017). 「言語材料と4技能の指導」樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子（編著）『新編小学校英語教育入門』（pp. 74-83）. 東京：研究社。
- 衣笠知子. (2017). 「うたの効果的な活用法は？」樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子（編著）『Q & A小学校英語指導法事典—教師の質問112に答える』（pp. 115-116）. 東京：教育出版。
- 田中真紀子. (2017). 『小学生に英語の読み書きをどう教えたら良いか』東京：研究社。
- 東京学芸大学. (2016). 『文部科学省委託事業「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」平成27年度報告書』 Retrieved October 7, 2021, from <http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/wp-content/uploads/2016/03/h27all.pdf>
- 東京学芸大学. (2017). 『文部科学省委託事業「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」平成28年度報告書』 Retrieved October 7, 2021, from http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/28file/report28_all.pdf
- 外山節子. (2010). 「外国語活動を豊かにする英語絵本」外山節子（監修・著）『英語の絵本活用マニュアル』（pp. 17-33）. 東京：コスモビア。
- 文部科学省. (2017a). 『小学校学習指導要領平成29年告示』 Retrieved October 7, 2021, from https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afeldfile/2018/09/05/1384661_4_3_2.pdf
- 文部科学省. (2017b). 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語科編』 Retrieved October 7, 2021, from https://www.mext.go.jp/content/20201029-mxt_kyoiku01-100002607_11.pdf

文部科学省初等中等教育局教科書課. (2020). 「小学校用教科書目録 (令和3年度使用)」 Retrieved October 7, 2021, from https://www.mext.go.jp/content/20200430_mxt_kouhou02_mext_00001_01.pdf
 各種検定教科書, 教師用指導書も参照 (表1参照)

資料

資料 1 第5学年「外国語」児童文学教材

書名略称	★総頁数, 単元 (Unit/Lesson) 数	※児童文学教材の件数(頁数・各単元での扱い)
○“教材名”【頁数,掲載箇所,単元での扱い】説明,問い,活動等 *その他: 特記事項,指導書記載事項等		
NH5	★106 頁, 8 Unit	※物語 1 (1 頁・単元外/配当無)
○“A Bundle of Sticks”【1 頁, Story Time (Unit 外/配当時間無し・巻末)】説明: 「農場主のおじさんは, 子供たちの仲がとても悪いことになやんでいました。おじさんはある日, 子供たちに言いました『森へ行って, 小枝を集めておいで』 問い: 「おじさんは森から帰ってきた子供たちに何と言ったでしょうか」(教科書, p. 84) *指導書: ロール・プレイ提案		
SS5	★142 頁, 9 Lesson	※物語 1 (1 頁・単元内)
○“十二支の物語”【1 頁, Let's Play & Let's Listen (Lesson 7)】活動: 動物の英単語理解, 物語を聞いてイラストを物語の順に並べる *指導書: 概要把握, クイズの出し合い提案		
JT1	★162 頁, 10 Lesson	※物語 10 (10 頁・単元内), 歌 10 (5 頁・単元内・発展)
○“Shaggy's Story”【各 1 頁, 全 Lesson 末に各 1 話】説明: 犬の Shaggy は幼児と会話可能 (教科書: 31) *指導書: 「筋のある話に慣れ親しみながら, 次の話が楽しみになるような時間にしたい」(朱書編, p. 32)		
○以下は巻末に全歌詞掲載【5 頁, Songs for Lesson (全 Lesson に各 1 作・全て発展扱い)】 “The Bear Went over the Mountain”, “Rain, Rain, Go Away”, “Pat-A-Cake”, “A Sailor Went to Sea”, “Pease Porridge Hot”, “Eentsy, Weentsy Spider”, “One, Two, Three, Four, Five”, “One Elephant Went Out to Play”, “This Little Pig Went to Market”, “Old Macdonald Had a Farm” 説明: 「歌になれたら歌を聞きながら, 絵や歌詞を見てみましょう」「先生方へ: 小学校英語の学習指導要領外の内容を扱ったものです。児童の興味関心に応じてご利用ください」(教科書, p. 5) *指導書: 全歌詞・訳・指導ポイント・活動例。各 1-2 頁程度		
CJ5	★142 頁, 3 Unit	※物語 4 (3.5 頁・単元内)
○“The North Wind and the Sun”【1 頁, Story (Lesson 1)】説明: 「北風と太陽が力じまんをしていると, ひとりの旅人が通りかかりました」「イソップ物語のひとつです」(教科書, p. 19)		

○“Twelve Months”【各1頁, Story (Lesson 3, 4)】説明:「12月の寒い日, マルーシカは母と姉に森に出かけるように言いつけられます」「スロバキアの民話です」(教科書, p. 43, p. 53)

○“The Happy Prince”【1頁, Story (Lesson 6)】説明:「ある街に建つ『幸福の王子』の像。ツバメがたずねます。『どうして泣いているの?』」「オスカー・ワイルド作の童話です」(教科書, p.79)活動(全Story 同一):「①どんなお話でしたか。どんなことばが聞こえましたか。②もう一度聞こう」*指導書(全教材同一):「イラストに描かれているものやストーリー展開に沿った問いかけをし, 概要をとらえさせる」「児童の聞き取れた語句をストーリーベースで引き出す」(Teacher's Book, pp. 28-29; 66-67; 80-81; 120-121)

OW5 ★146頁, 9 Lesson ※物語1(1頁・単元外), 歌1(1頁・単元外/配当時間無・発展)

○“A Good Idea!”【1頁, Let's Read and Act 2 (Lesson 外)】活動:「絵を見ながら英語を聞いて, 物語の流れを追ってみよう」(教科書, p. 90)*指導書:道徳教材の漫画化と説明。「8コマ漫画を見ながら音声を聞き, 物語の流れを理解させる」, ロール・プレイ・寸劇提案(教師用指導書, p. 106)。

○“It's a Small World”【1頁, Let's Enjoy the Music (Lesson 外/配当時間無し・巻末・発展扱い)】説明:「この曲には, 争いのない平和な世界への願いがこめられています。」(教科書, p. 118)*指導書:「最初から歌わせる必要はなく, どんな内容かを想像させて聞かせるとよい」(教師用指導書, p. 138)

HW5 ★160頁, 9 Unit ※物語1(1頁・単元内・発展部分含む), 歌6(3.5頁・単元内・発展)

○“The Gingerbread Man”【1頁, 英語の物語 (Fun Time 5・Unit 5)・発展部分含む】活動:「音声を聞いて, 物語を楽しみましょう。この後, 物語はどうなるでしょう」「ジンジャーブレッドマンのせりふを目で追いながら, 音声の後について言ってみましょう」説明:「ヨーロッパやアメリカで多くの人に愛されている民話です」, 下線部は「小学校英語の学習内容以外のものです」(以上教科書, p. 105)

○以下は【各0.5-1頁, 英語の歌 (Fun Time 1-6・Unit 1-6)・全て発展扱い】

“This Is the Way”活動:「1日の生活を思いうかべながら歌ってみましょう」(教科書, p. 60)／“I Love the Mountains”説明:「キャンプソングの1つです」活動:「くり返しの言葉のひびきや調子を楽しみながら, 聞き取れたところから歌いましょう」(教科書, p. 70)／“It's a Small World 説明:『みんなが平和にくらせますように』という願いが込められた歌です」活動:「くり返し聞いて, 歌えるところを歌ってみましょう」(教科書, p. 80)／“Pease Porridge Hot”説明:「英語を話す国で古くから親しまれている, 手合わせ遊びの歌です」活動:「似た音のくり返しを楽しみながら, 歌ってみましょう」(教科書, p. 90)／“On Top of Spaghetti”説明:「ミートボールが転がっていく歌です」活動:「楽しみながら, 聞いてみましょう」(教科書, p. 104)／“Everyone Is Special”説明:『一人一人はかけがえのない存在で, あなたの代わりはだれもいないよ』というメッセージが込められた歌です」活動:「くり返し聞き, 歌えるところを増やしていきましょう」(教科書, p. 115)

*その他：全て教科書に歌詞掲載／*指導書：「Fun Time は、単元の中で内容に関連させながら適宜使用する」（Teacher's Book, p. 71, 87, 103, 119, 139, 155）。英語の物語・英語の歌、各スクリプト掲載

BS5 ★138 頁, 8 Unit ※物語 1 (4 頁・単元外)

○“Who's Behind Me?”【4 頁, Story (Unit 外・巻末)】活動：「絵を見ながら物語を聞いて、内容を考えましょう。」(教科書, p. 96)*指導書：単元目標「物語を、文字を追いつながら聞き、絵を参考にして内容を推測する」「音と文字との関係に気付く」、授業流れ・Story の「視聴」「音読」「読み聞かせ」、「児童に、日本語の絵本と比べさせてもおもしろいだろう」（以上 Teacher's Manual, pp. 96-98）

資料 2 第 6 学年「外国語」児童文学教材

書名略称 ★総頁数, 単元 (Unit/Lesson) 数 ※児童文学教材の件数(頁数・各単元での扱い)

○“教材名”【頁数,掲載箇所,単元での扱い】説明,問い,活動等 *その他: 特記事項,指導書記載事項等

NH6 ★106 頁, 8 Unit ※物語 1 (2 頁・単元外/配当無), 歌 2 (0.5 頁・単元外/配当無・発展), 絵本 8 (1 頁・単元外/配当無)

○“Butterfly Friends”【2 頁, Story Time (Unit 外/配当時間無し・巻末)】説明：「ドイツに古くからわるお話です」(教科書, p. 82)*指導書：「なぜチョウはクローバーのまわりを飛び交っているのでしょうか」(指導編, p. 82)

○以下は【0.5 頁, English Songs (Unit 外/配当時間無し, 巻末)・発展扱い】

“Take Me Home, Country Roads”説明：「アメリカのふるさとを思う歌」(教科書, p. 84)／“We Are the World”説明：「『世界は一つ』というメッセージ」(教科書, p. 84)*指導書：訳例, 作歌上の背景

○以下は“English Picture Books”【1 頁,「おすすめの英語絵本」(Unit 外/配当時間無し・巻末)】

“ABC I Like Me!”, “Tomorrow's Alphabet”説明：アルファベットを楽しく学べる絵本／“It's Okay to Be Different”, “Guess How Much I Love You”説明：大切なことを教えてくれる絵本／“From Head to Toe”, “Bark, George”説明：動物が出てくる楽しい絵本／“I'll Always Love You”, “Swimmy”説明：日本でも有名な絵本 (説明はすべて教科書, p. 85)

*その他：各絵本の表紙と、日本語であらすじのみ掲載／*指導書：説明なし

SS6 ★150 頁, 11 Lesson ※物語 2 (4 頁・単元内), 歌 1 (1 行・単元内)

○“七夕の物語”【2 頁, Let's Listen (Lesson 5)】説明：「七夕の物語を聞こう」(教科書, p. 25)*その他：織姫と彦星のイラスト 6 種掲載／*指導書：「場面ごとのイラストを指し示し、誰のセリフかわかるように補助する」(Teacher's Book, p. 40)

○“Twinkle, Twinkle, Little Star”【1 行「～を歌おう」, Let's Sing (Lesson 5)】

*その他：教科書に歌詞掲載なし／*指導書：活動の流れ，指導ポイント，歌詞と意訳掲載

○“大きなかぶ”【2頁，「大きなかぶ」を読もう（Lesson 9）】活動：「物語『大きなかぶ』を聞こう」

「物語をもう一度聞いて，後に続いて言おう」，次の文/絵を正しく表している絵/文の（ ）に○を書こう，「物語の続きを考えよう」，「ことばの並び方について気づいたことを書こう」（教科書，pp. 96-97）

*その他：9種イラスト掲載／*指導書：語順を「体験的に学べるようになっている」「発展的な活動として，物語の続きを考える場を設けてある」（Teacher's Book, p. 95）

JT2 ★158頁，10Lesson ※物語10（10頁・単元内），歌10（5頁・単元内・発展），その他（物語活用教材）（0.5頁・単元内）

○“Shaggy's Story”【各1頁，全Lesson末に各1話】説明：家族は現在ロンドン滞在中（教科書：27）

*指導書：活動ポイント・日本語訳掲載。「全体を繰り返し聞かせ，徐々にまとまりのある文を聞くことに慣れ親しませ，聞いて内容がわかるという成就感を味わわせたい」（朱書編，p. 138）

○以下は巻末に全歌詞掲載【5頁，Songs for Lesson（全Lessonに各1作・全て発展扱い）】

“I Love the Mountains”，“If You're Happy”，“London Bridge”，“Row, Row, Row Your Boat”，“Mary Had a Little Lamb”，“Down by the Bat”，“The Farmer in the Dell”，“Once an Australian Went Yodeling”，“This Old Man”，“She'll Be Comin' Round the Mountain”説明：「歌になれたら歌を聞きながら，絵や歌詞を見てみましょう」「先生方へ：小学校英語の学習指導要領外の内容を扱ったものです。

児童の興味関心に応じてご利用ください」（教科書，p. 5）*指導書：全歌詞・訳・指導ポイント・活動例。

各1-2頁程度

○Cinderellaと『モチモチの木』各1場面【0.5頁，活動⑤（Lesson 6）】←物語活用教材

活動：「次の人たちは，どこに行きたいと思っているのでしょうか（1）推測して読んでみましょう（2）話を聞いて，確認しましょう」（教科書，p. 87）*指導書：「既知の情報や視覚情報から推測して英文を読ませる」（朱書編，p. 99）

CJ6 ★138頁，3Unit ※物語3（4頁・単元内），詩（歌詞）1（1頁・単元内・発展），その他（物語活用教材）（0.5頁・単元内）

○“Gulliver's Travels”【1頁，Story（Lesson 1）】説明：「冒険を愛するガリバー青年。新たな冒険を求めて今日も旅に出かけます。」「ジョナサン・スウィフト原作の物語です」（教科書，p. 19）

○“The Blue Bird”【各1頁，Story（Lesson 3, 4）】説明：「ある夜，チルチルとミチルが外を見ていると，おばあさんが現れて…」，「メーテルリンク作の物語です」（教科書，p. 45, 55）

○“Mary Had a Little Lamb”【1頁，Story（Lesson 6）】説明：「メアリとヒツジは大のなかよし。いつだっていっしょです。ある日…」（教科書，p. 81）活動（全Story同一）：「①どんなお話でしたか。どんなことばが聞こえましたか。②もう一度聞こう」*指導書（全教材同一）：「イラストに描かれている

ものやストーリー展開に沿った問いかけをし、概要をとらえさせる」「児童の聞き取れた語句をストーリーベースで引き出す」(Teacher's Book, pp. 28-29; 68-69; 82-83; 122-123)

○Alice's Adventures in Wonderland『桃太郎』各3場面【0.5頁, Listen & Talk (Lesson 5)】←物語
活用教材/活動: 上記主人公の物語(3コマ漫画)並べ替え

*指導書: 「できごとの起きた順番に、やり取りしながら正解を確認する」(Teacher's Book, p. 102)

○"It's a Small World"【1頁, Enjoy Listening (Lesson 7)・発展扱い】活動: 「どんなことを言っているかを聞こう」「聞き取ったことばは見つかるかな。今度は英語の文も見ながら聞こう」(教科書, p. 95)

*その他: 朗読音声(歌なし)/ *指導書: 意味は「なんとなくわかればよいので、日本語に訳すことは避ける」(Teacher's Book, pp. 141-142)

OW6 ★146頁, 9 Lesson ※物語2(5頁・単元外), 歌1(1頁・単元外/配当時間無・発展)

○"A Great Idea!"【1頁, Let's Read and Act 1 (Lesson 外)】活動: 「絵を見ながら英語を聞いて、物語の流れを追ってみよう」(教科書, p. 42) *指導書: 道徳教材の漫画化。「個別の表現の理解にこだわりすぎなくてもよい」、登場人物の気持ち・行動の理解、簡単な劇を提案(教師用指導書, p. 50)。

○"The Letter"【4頁, Let's Read and Act 2 (Lesson 外)】活動: 「絵を見ながら英語を聞いて、物語の流れを追ってみよう。」「かえるくんのお手紙を読んでみよう」「大切な人に手紙を書いてみよう」(教科書, p. 82, 85) *指導書: 国語科教材でも取り上げられている。「初出の語も出てくるが、物語の流れがわかればよく、とくに取り上げて指導はしない」。ロール・プレイ提案(教師用指導書, p. 100)。

○"Smile"【1頁, Let's Enjoy the Music (Lesson 外/配当時間無し・巻末)・発展扱い】説明: 「『ほほえんでいるかぎり、明るい明日がきつと来る』と私たちを元気づけてくれる歌です」(教科書, p. 112)

*指導書: 「最初から歌わせる必要はなく、どんな内容かを想像させて聞かせるとよい」(教師用指導書, p. 134)

HW6 ★164頁, 9 Unit

※物語2(2頁・単元内), 詩1(1頁・単元内・発展部分含む), 歌9(6頁・単元内・うち発展8)

○"The Rolling Rice Ball"【1頁, 英語の物語 (Fun Time 4・Unit 4)】活動: 「音声聞いて、英語のリズムを楽しみましょう。」「文字を指で追いながら、音声の後について言ってみましょう」説明: 日本の民話『おむすびころりん』です」(教科書, p. 59)

○"Kurikindi"【1頁, 英語の物語 (Fun Time 8・Unit 8)】活動: 「音声聞いて、英語のリズムを楽しみましょう。」「ハチドリのカリキンディはどんな行動をとりましたか」説明: 「エクアドルに民話として伝わる物語です」(教科書, p. 103)

○"Hello"【1頁, 英語の詩 (Fun Time 1・Unit 1)・発展部分含む)】活動: 「音声聞いて、詩のリズムを楽しみましょう。」「意味が分かる単語はありますか。絵を参考に意味を想像してみましょう」

説明:下線部は「小学校英語の学習内容以外のものです」(以上教科書, p. 27)

○以下は【各 0.5-1 頁, 英語の歌 (Fun Time 1-9・Unit1-9)・発展扱い 8】

“How Do You Do?” (発展) 活動:「新しい友達や外国人の先生をむかえるときに歌ってみましょう」(教科書, p. 26) / “Do-Re-Mi” (発展) 活動:『ドレミファソラシド』の言い方は日本と同じですか。聞いてみましょう」(教科書, p. 36) / “Take Me Out to the Ball Game” (発展) 活動:「聞き取れたところを、いっしょに歌ってみましょう」(教科書, p. 47) / “A Sailor Went to Sea” (発展) 活動:「同じ音で表される2つの単語の、意味のちがいを考えながら歌ってみましょう」(教科書, p. 58) / “Humpty Dumpty” 活動:「文末の、似た音がくり返される部分を歌ってみましょう」(教科書, p. 68) / “Sing” (発展) 活動:「耳に残ったところを歌ってみましょう」(教科書, p. 78) / “Bring Happiness to the World” (発展) 活動:「英語の歌を聞いた後、日本語の歌も聞き、感じたことを話してみよう」(教科書, p. 89) / “Over the Rainbow” (発展) 活動:「こめられた歌詞を味わいながら歌ってみよう。」(教科書, p. 102) / “I Think You’re Wonderful” (発展) 問い・活動『君ってすごいね。』とだれかに言われたら、どんな気持ちになりますか?、「くり返し聞き、歌えるところを増やしていきましょう」(教科書, p. 113)

*指導書:「Fun Time は、単元の中で内容に関連させながら適宜使用する」と説明 (Teacher’s Book, p. 19, 35, 51, 85, 101, 117, 137, 153)。英語の物語・英語の歌、各スクリプト掲載

BS6 ★138 頁, 8 Unit ※物語 1 (4 頁・単元外)

○“The Very Big Turnip”【4 頁, Story (Unit 外・巻末)】活動:「絵を見ながら物語を聞いて、内容を考えましょう」(教科書, p. 96) *指導書:単元目標「物語を、文字を追いながら聞き、絵と文字の関係に気づく」「英語の語順に慣れる」、授業流れ「Story の視聴」「Story の音読」「文字を読む」、劇などの活動に発展させて1年生の児童にもわかるような演出を考えて発表させる」(Teacher’s Manual, pp. 96-99)

注:教科書の説明・問い・活動、指導書記載事項等は、誌面の都合で一部分を引用。児童文学の頁数は1

頁に4分の1以下のスペースで他の活動が掲載されている場合、1頁と計算